

# 広島県中山間地域振興計画

## — 第Ⅱ期 —

( 素 案 )



# 目次

---

## 第Ⅰ章 総論

1 策定に当たって	1
2 将来にわたって目指すべき中山間地域の姿	3
3 中山間地域を取り巻く環境	5
4 計画推進に当たっての基本的な考え方	15
5 推進体制	18

---

## 第Ⅱ章 施策の推進方向

■ 多様な力でつながる人づくり	21
■ 夢をカタチにできる仕事づくり	27
■ 安心を支える生活環境づくり	34
◇分野別の参考指標	47

---

## 資料編

● 地域の暮らしに対する意識調査等の状況	51
● 広島県中山間地域振興条例	73



# 第Ⅰ章 総論

<b>1 策定に当たって</b> .....	1
(1) 策定の趣旨	
(2) 計画期間	
(3) 対象地域	
<b>2 将来にわたって目指すべき中山間地域の姿</b> .....	3
(1) 中山間地域の価値	
(2) 目指すべき姿	
<b>3 中山間地域を取り巻く環境</b> .....	5
(1) 中山間地域の現状	
(2) 新たな潮流	
<b>4 計画推進に当たっての基本的な考え方</b> .....	15
(1) 5年後の目指す姿	
(2) 基本姿勢	
(3) 施策の全体像	
<b>5 推進体制</b> .....	18
(1) 県民, 市町, 県の連携	
(2) 推進体制	

# 1 策定に当たって

---

## (1) 策定の趣旨

本県の中山間地域では、若年層を中心とした人口の流出を背景に、全国に比べて、集落の小規模化や高齢化が大きく進み、基幹産業としての農林水産業の衰退や地域の担い手の不足、空き家や耕作放棄地の増加など、地域コミュニティを維持していく上で、深刻かつ厳しい状況に直面しています。

こうした状況を克服し、将来に向けて持続可能な中山間地域を実現していくため、平成25(2013)年10月に制定した「広島県中山間地域振興条例」(以下「条例」という。)に基づき、翌年12月に「広島県中山間地域振興計画」を策定し、地域に暮らす方々が、将来に希望を持ち、「笑顔で幸せな生活を営むことができる中山間地域」を目指して、《人》, 《仕事》, 《生活環境》の3つの柱に沿った関連施策を総合的に展開してきました。

しかしながら、この間も中山間地域の人口減少は続き、国による将来推計では、今後も、その傾向は一段と厳しさを増していくことが見込まれています。

人口減少の「加速の入口」という大きな岐路に立つ中で、人口減少下にあっても地域の持続可能性を高めていくためには、現実を直視し、変化に対応できる新しい地域づくりへの道筋を見出していかなければなりません。

このような認識の下で、本計画は、条例に基づき、中山間地域の目指す姿を県民の皆様と共有し、県民、市町、県が連携、協働しながら、持続可能な中山間地域の実現に向けて、ともに行動を起こしていくための基本計画として策定するものです。

なお、この計画の推進に当たっては、現在、全国において広がっている新型コロナウイルス(以下「新型コロナ」という。)の影響を受けて、当分の間、様々な制約が生じることも予測されますが、健康危機への対処をはじめ、雇用の維持や県民生活の不安解消に十分配慮しながら、不確実な環境下にあっても、その変化に応じた適切な対応に努めてまいります。

## (2) 計画期間

令和3(2021)年度～令和7(2025)年度 (5年間)

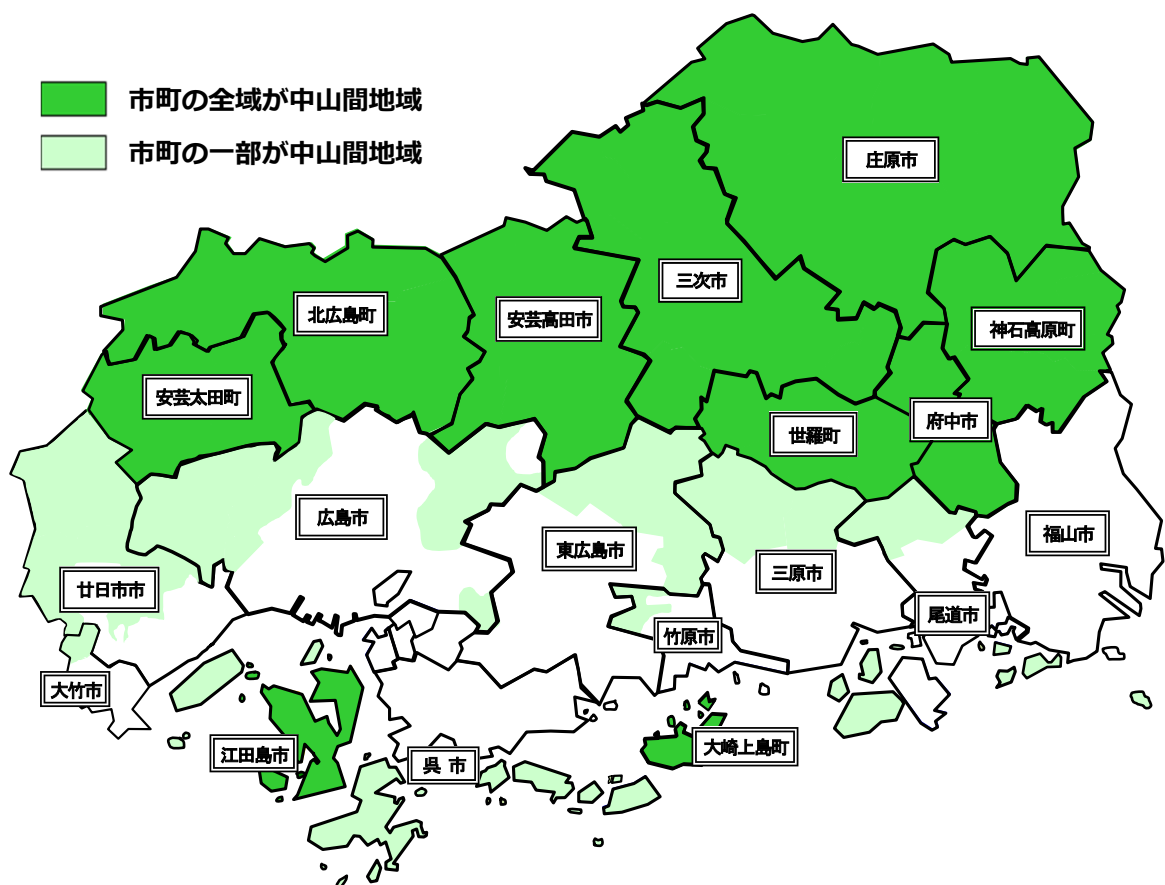
## (3) 対象地域

条例に定める中山間地域を有する市町数は19市町であり、対象地域の人口は、約36万人で県全体の約1割、面積は約7割を占めています。また、人口密度は全県平均の約1/6となっています。

### 《中山間地域を有する市町数》

区 分		該 当 市 町
全域が 中山間地域 (全域過疎市町)	10	府中市, 三次市, 庄原市, 安芸高田市, 江田島市, 安芸太田町, 北広島町, 大崎上島町, 世羅町, 神石高原町
一部が 中山間地域	9	広島市, 呉市, 竹原市, 三原市, 尾道市, 福山市, 大竹市, 東広島市, 廿日市市

※ 中山間地域とは、「離島振興法」、「山村振興法」、「半島振興法」及び「過疎地域自立促進特別措置法」の何れかにより指定された地域。



### 《人口及び面積》

区 分	人口(A)	面積(B)	人口密度(A/B)
広島県全域	2,843,990 人	8,479 km <sup>2</sup>	335.4 人/km <sup>2</sup>
うち中山間地域 (構成比)	359,417 人 (12.6%)	6,059 km <sup>2</sup> (71.5%)	59.3 人/km <sup>2</sup>

※ 人口は「H27国勢調査」、面積は「2015年農林業センサス」などによる。





## (2) 目指すべき姿

**里山・里海に象徴される人と自然が作り出す中山間地域ならではの資産が、守るべき価値あるものとして、内外の人々により引き継がれる中で、  
地域への愛着と誇りの高まりが、将来への希望と安心につながり、心豊かに、笑顔で幸せな生活を営むことができる中山間地域**

中山間地域の住民の多くは、地域に愛着を持ち、また、都市部の多くの住民も、中山間地域を大切な地域であると考えています。

こうした方々の意識の背景にあるのは、日本人の原点ともいえる農山漁村の暮らしや守り継がれてきた伝統文化、四季折々の自然が織りなす豊かな恵みなど、里山・里海に象徴される中山間地域ならではの資産であり、地域の強みとして積極的に生かしていくことが重要です。

このため、都市的な生活環境を目指すのではなく、むしろ都市部にはない中山間地域ならではの魅力や豊かさを地域の資産として再認識し、守るべき価値のあるものとして再構築しながら、しっかりと将来に引き継いでいく必要があります。

また、私たちの暮らしは、その居住地に関わらず、農林水産物の供給や都市的サービスの享受など、中山間地域と都市部とが双方の機能や役割を共有・補完し、相互に支えあう中で営まれており、中山間地域は、そこに暮らす人々だけでなく、都市部に暮らす人々にとっても大きな関わりを持つ地域です。

こうした中で、これまで、主として地域に住む方々の暮らしの中で引き継がれてきた中山間地域の価値は、担い手（後継者）の減少などにより、これまでどおり継承していくことが困難な状況になりつつあります。将来にわたってこの価値を維持・継承していくためには、地域の人々だけではなく、内外の人々によって引き継がれていく必要があります。

このような考えのもと、中山間地域の価値や暮らしに共鳴する地域内外の人々を増やし、こうした方々に地域への愛着と誇りが広く共有され、それが将来への希望や安心につながっていくことによって、心豊かに笑顔で暮らし、充足した幸せを実感できる中山間地域の実現を目指します。

### 3 中山間地域を取り巻く環境

#### (1) 中山間地域の現状

##### 人口・集落

###### 《人口減少の加速》

中山間地域では、県全体を大きく上回るスピードで人口の減少傾向が続いています。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、その傾向は、今後さらに加速し、平成27(2015)年から令和27(2045)年までの30年間で、県全体の人口減少率は15%と推計されている中で、全域が中山間地域（全域過疎市町）の10市町では総人口が24万人から14万人まで減少し、減少率は県全体を大きく上回る40%になると推計されており、中山間地域における人口減少の加速は、避けられない厳しい状況に直面しています。

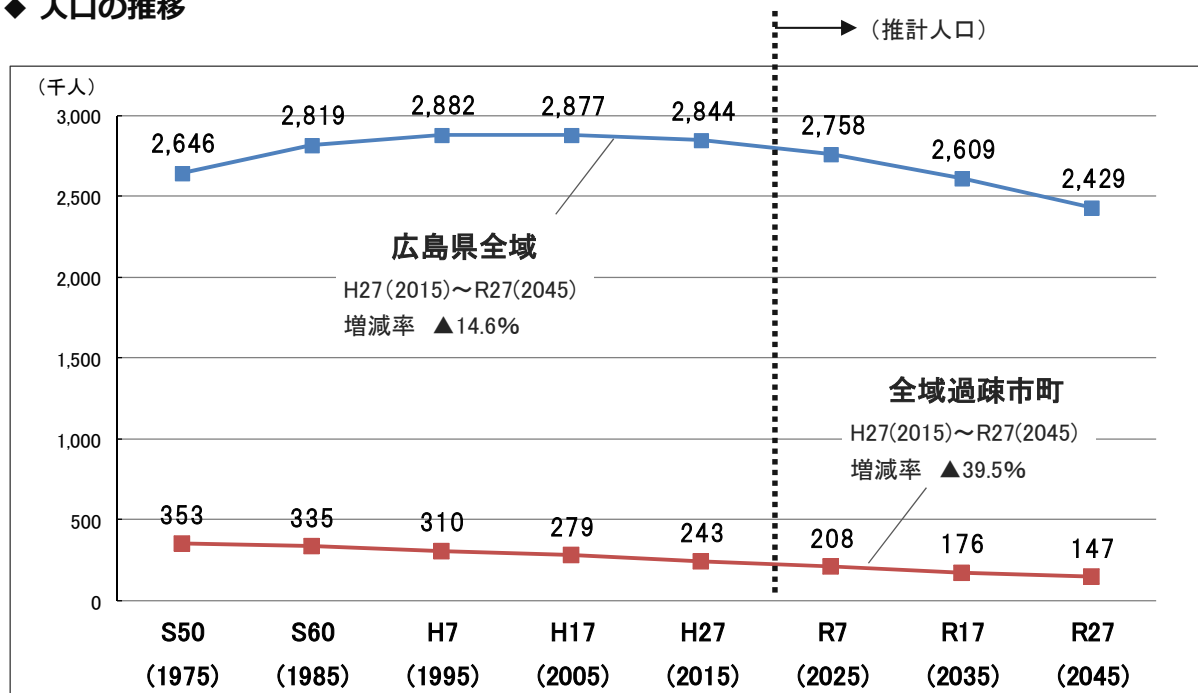
加えて、中山間地域は県全体に比べて高齢化率が高く、令和元（2019）年は、6市町において高齢化率が40%を超えています。令和27（2045）年には、すべての全域過疎市町で40%を超えることが見込まれています。

こうした中で、今後、人口減少や高齢化の一層の進展を背景とした農林水産業などの既存産業の衰退や医療・買物・交通など生活を支える機能・サービスの廃止・縮小等が続くと、将来への明るい展望が描きにくくなり、それが不安要因となって若い世代の定住意欲が低下し、人口減少にさらに拍車をかけるという「負の連鎖」となって、地域の維持・存続や価値の継承が困難になり、地域社会の持続可能性に大きな影響を及ぼすことが懸念されます。

###### 〔負の連鎖〕



## ◆ 人口の推移



※ 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(H30.3)による。

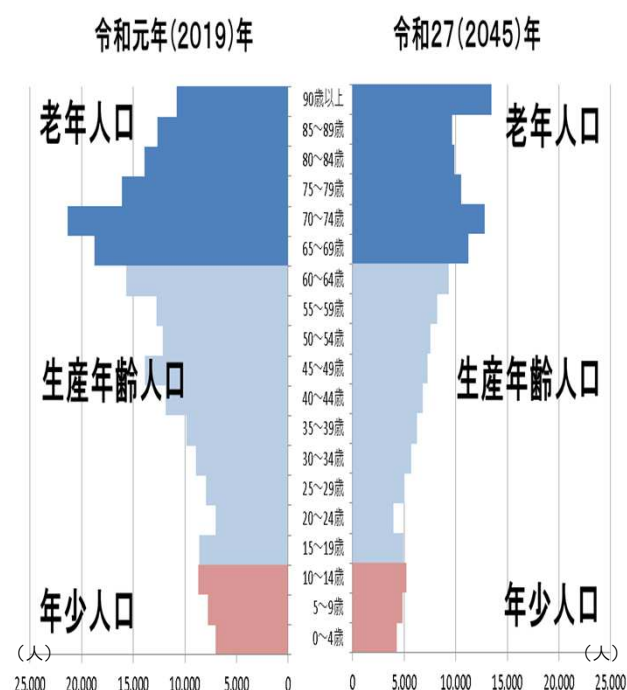
## ◆ 高齢化率の推移 (全域過疎市町)

(単位: 人, %)

市町名	令和元年(2019)		令和27年(2045)	
	人口	高齢化率	人口	高齢化率
三次市	52,556	35.3%	36,643	45.3%
府中市	39,595	36.3%	25,343	45.4%
庄原市	35,556	42.1%	21,571	43.4%
安芸高田市	28,808	38.9%	19,232	45.4%
江田島市	23,501	43.0%	10,774	47.1%
北広島町	18,780	37.8%	12,969	43.6%
世羅町	16,309	40.5%	9,173	53.7%
神石高原町	9,103	46.8%	4,536	52.1%
大崎上島町	7,538	47.6%	3,791	44.0%
安芸太田町	6,275	49.3%	2,844	57.1%
全域過疎市町計	238,021	39.4%	146,876	46.0%
広島県計	2,838,632	28.6%	2,428,818	35.2%

※ 令和元年は総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」、令和27年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(H30.3)による。

## ◆ 人口構成 (全域過疎市町)

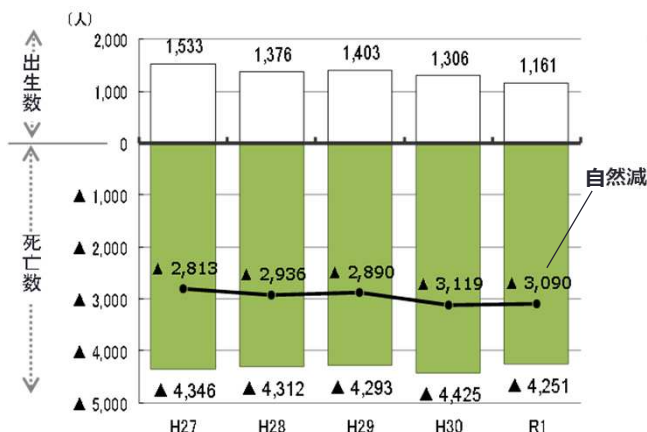


※ 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(H30.3)による。

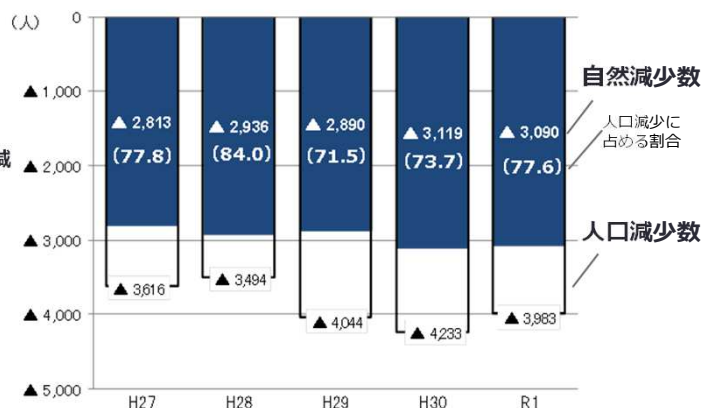
## 《自然減の影響》

死亡数が出生数を上回る「自然減」は緩やかな拡大傾向が続いており、人口減少全体に占める割合は約8割となっていることから、「自然減」は人口減少の最大の要因となっています。

### ◆ 自然減の推移 (全域過疎市町)



### ◆ 人口減少に占める自然減の割合 (全域過疎市町)

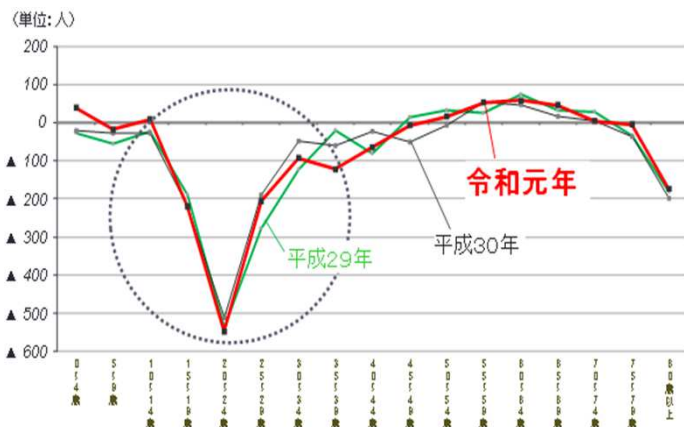


※ いずれのグラフも「広島県人口移動統計調査」を基に作成。

## 《社会減の影響》

日本全体が人口減少社会を迎えている中で、本県の中山間地域においても、今後、人口減少は避けられない状況にあります。特に、中山間地域の社会減の約8割を占めている20～40歳代の若者、子育て世代の減少がこのまま続くと、人口の再生産が進まず、地域が縮小し、コミュニティの維持そのものが困難な状況になっていくことが懸念されます。

### ◆ 年齢階層別転出入の状況 (全域過疎市町)



※ 総務省「住民基本台帳人口移動報告」を基に作成。

### ◆ 社会増減の状況 (全域過疎市町)

(単位:人)

区分	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)
社会増減	▲1,154	▲1,114	▲893
うち日本人	▲1,306	▲1,367	▲1,282
うち外国人	152	253	389

※ 広島県「人口移動統計調査」による。

- ✓ 日本人の転出超過に、外国人の転入超過が一定の歯止めをかけているものの、全体では、社会減が続いている。

## 《集落の小規模・高齢化》

本県の中山間地域における集落は、人口減少や少子・高齢化の進展により、高齢者割合が高い集落や世帯数が10世帯に満たない小規模な集落が増加傾向にあり、全集落のうち、住民の半数以上が65歳以上である集落の割合は43.0%と全国平均を大きく上回っています。

こうした中で、担い手の減少や後継者の不足による耕作放棄地の増加、森林の荒廃、利用者の減少による生活交通の縮小など、様々な問題に直面しており、日々の暮らしにおける安心・安全をいかに確保し、「持続可能な地域社会」を構築していくかが重要な課題となっています。

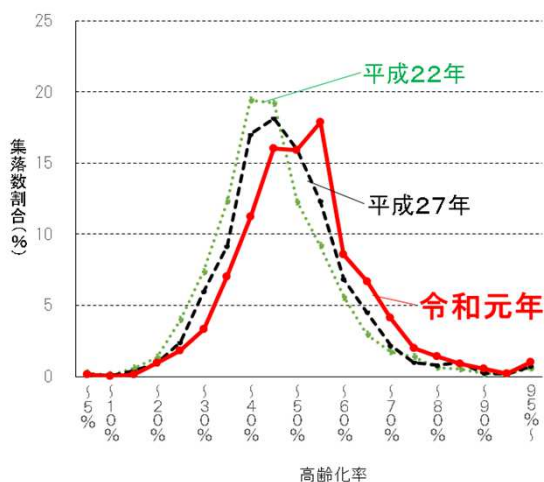
### ◆ 中山間地域における集落の状況

(単位:集落, %)

区分		集落数	65歳以上が 50%以上の集落数 (割合)	10世帯未満の 小規模集落数 (割合)
全国	令和元年 (2019)	76,710	22,437 (29.2)	7,994 (10.4)
中山間地域 (広島県)	平成22年 (2010)	3,236	740 (22.9)	318 (9.8)
	平成27年 (2015)	3,235	956 (29.6)	329 (10.2)
	令和元年 (2019)	3,230	1,388 (43.0)	372 (11.5)

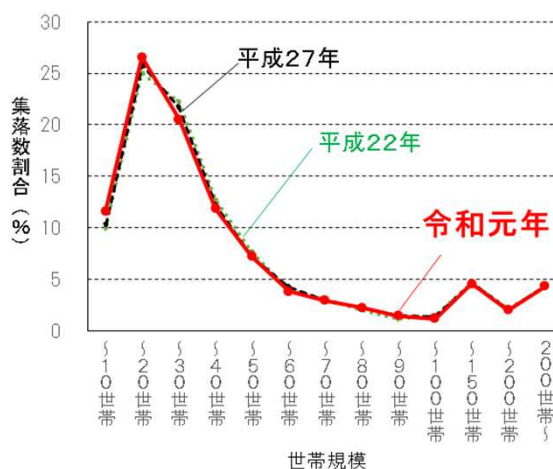
※ 全国は、総務省「過疎地域等における集落の状況に関する現況把握調査報告書」(R2.3)による。  
中山間地域(広島県)は、県地域政策局調査による。

### ◆ 高齢化の状況



※ 県地域政策局調査による。

### ◆ 世帯数の状況



※ 県地域政策局調査による。



## 産業雇用

中山間地域内の総生産は、緩やかに増加しており、特に第1次産業においては、約8割を占める農業生産額が、経営力の高い担い手の育成や収益性の高い園芸作物への転換などを通じて増加傾向にあります。

一方、就業者数は、製造業事業所や小売業商店数の大幅な減少に伴い、広島県全域に比べて減少率が大きく、雇用の場の確保がますます重要な課題となっています。

### ◆ 市町内総生産の推移

(単位:百万円, %)

区 分		平成23年 (2011)	平成26年 (2014)	平成29年 (2017)	H29-H23差引(増減率)
全域 過疎 市町	総生産	861,330	829,258	890,106	28,776 ( 3.3)
	第1次産業	35,463	34,766	41,734	6,271 ( 17.7)
	農業	29,897	28,832	35,817	5,920 ( 19.8)
	林業	2,619	2,702	2,676	57 ( 2.2)
	水産業	2,945	3,232	3,242	297 ( 10.1)
	第2次産業	334,968	313,218	362,483	27,515 ( 8.2)
第3次産業	490,891	479,562	488,164	▲2,727 (▲0.6)	
広島県全域		10,819,024	11,160,282	11,790,821	971,797 ( 9.0)

※ 広島県「市町民経済計算結果」による。「輸入税・その他」を含むため、総生産と各産業の合計値は一致しない。

### ◆ 製造業の状況 (全域過疎市町) (単位:事業所, %)

区 分	平成17年 (2005)	平成30年 (2018)	増減 (増減率)
事業所数	980	681	▲299 (▲30.5)

※ 経済産業省「工業統計調査」による。

### ◆ 小売業の状況 (全域過疎市町) (単位:事業所, %)

区 分	平成16年 (2004)	平成26年 (2014)	増減
事業所数	4,172	2,630	▲1,542 (▲40.0)

※ 経済産業省「商業統計調査」による。

### ◆ 就業者数 (15歳以上) の状況

(単位:人, %)

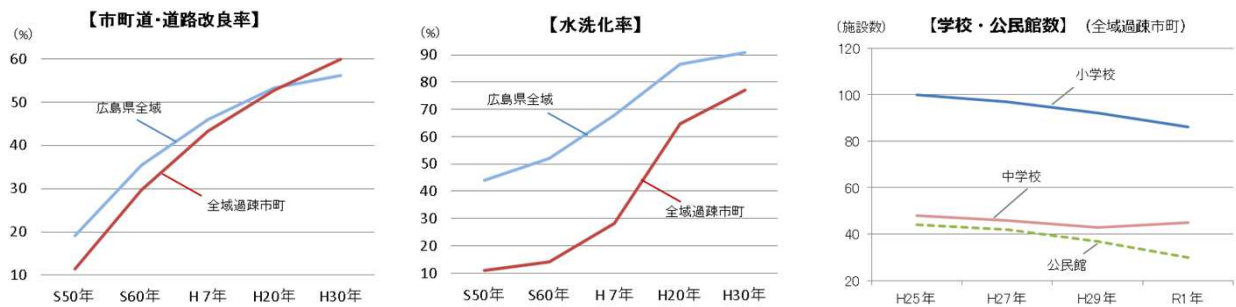
区 分		平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	H27-H17差引(増減率)
全域 過疎 市町	就業者数	141,428	126,837	119,283	▲22,145 (▲15.7)
	第1次産業	24,279	18,450	17,033	▲7,246 (▲29.8)
	第2次産業	38,874	31,641	30,250	▲8,624 (▲22.2)
	第3次産業	77,333	71,928	69,564	▲7,769 (▲10.0)
広島県全域	就業者数	1,398,474	1,343,318	1,336,568	▲61,906 (▲4.4)

※ 国勢調査による。分類不能があるため、合計値は一致しない。

## 生活環境

道路改良率や水洗化率などの生活インフラは、広島県全域との差が解消しつつある一方で、学校、公民館などの公的施設は、人口減少に伴い、施設の廃止や統廃合などによる集約化が進展しています。また、人口減少に伴う「空き家の増加」や「獣害・病害虫の発生」などが、多くの集落で問題となっています。

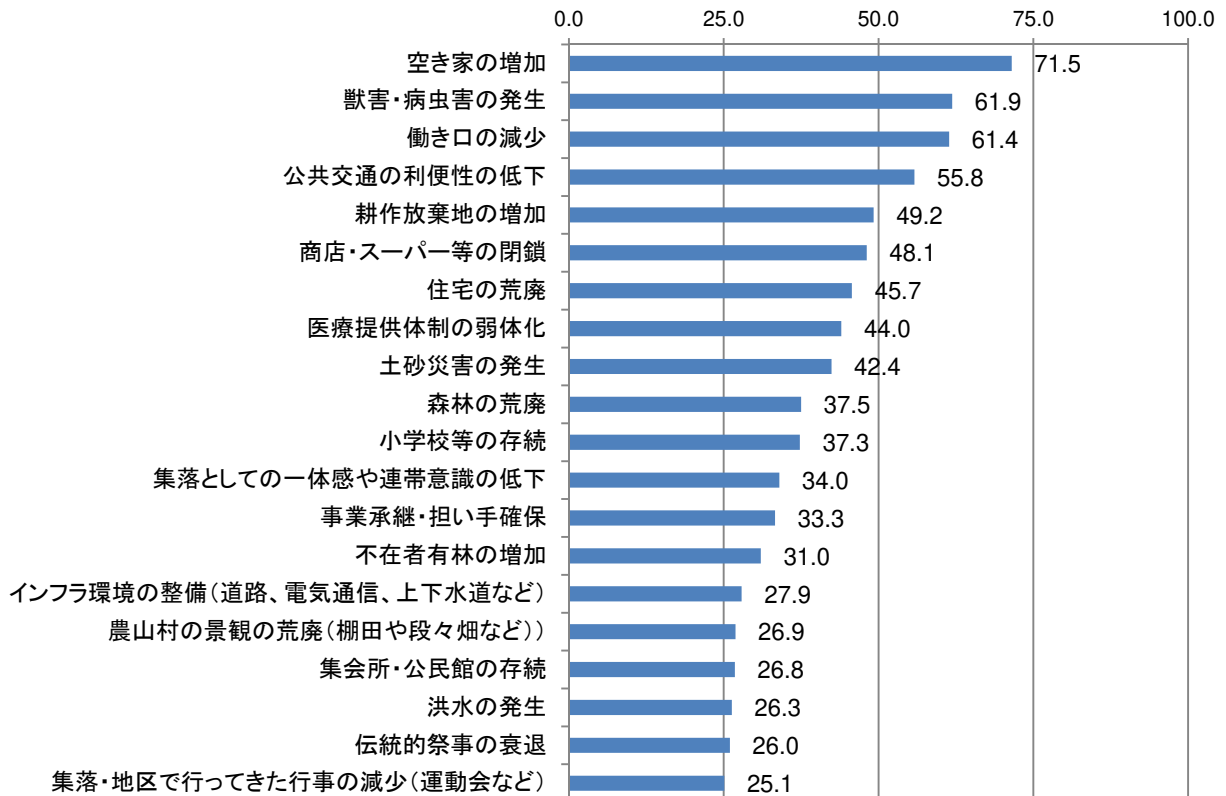
### ◆ 施設の整備状況



※ 県土木建築局, 環境県民局, 教育委員会事務局調べによる。

### ◆ 居住地において発生している問題や現象 (上位項目) (複数回答)

(単位: %)



※ 令和2(2020)年度広島県地域政策局「中山間地域に関する住民意識調査」による。

## 住民意識

これまで実施してきた中山間地域の価値に共鳴する若い世代を呼び込む取組や、地域ならではの価値を強みとして積極的に生かしていくための人材育成などの取組により、中山間地域における若年層の生活の満足感は、前回調査（平成25（2013）年）の37.5%を大きく上回る66.0%となっています。

一方で、将来の生活については、「とても不安なことがある」及び「どちらかという不安なことがある」を合わせて、中山間地域に住む約9割の住民が「不安」を抱いており、「自身の健康」や「家族の健康」、「収入」などが不安要素として上位に挙げられているほか、「家屋や田畑の管理」、「生活交通」、「有害鳥獣の発生」などが、都市部を大きく上回る中山間地域特有の不安要素として挙げられています。

### ◆ 地域生活の満足感

（単位：%）

区 分	満足している・どちらかという満足している		不満である・どちらかという不満である		どちらとも言えない	
	中山間地域	都市部	中山間地域	都市部	中山間地域	都市部
R2調査 (H25調査)	67.6 (59.7)	86.5 (83.5)	23.6 (23.8)	8.9 (8.9)	8.8 (16.5)	4.5 (7.6)
内 訳	18～40代	66.0 (37.5)	86.3 (81.9)	27.2 (39.8)	9.9 (11.1)	6.9 (6.9)
	50～60代	66.6 (65.7)	84.6 (87.5)	23.2 (21.5)	10.2 (5.3)	10.2 (7.2)
	70代以上	70.8 (70.5)	88.8 (78.4)	19.2 (13.9)	6.8 (12.2)	10.0 (15.7)

※ 令和2(2020)年度広島県地域政策局「中山間地域に関する住民意識調査」及び平成25(2013)年度 広島県地域政策局「地域の暮らしに対する意識調査」による。

### ◆ 将来への不安

（単位：%）

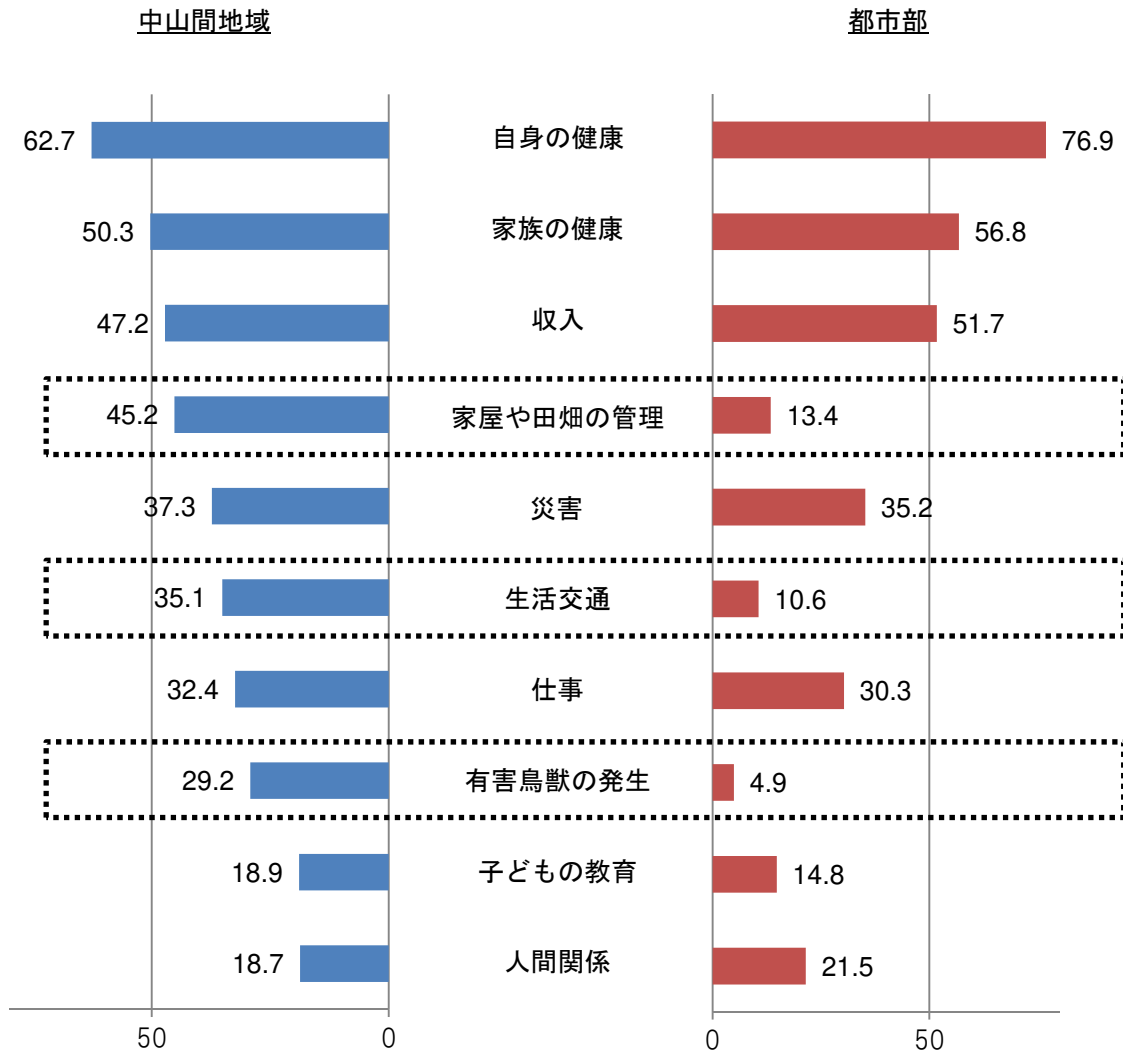
区 分	とても不安なことがある		どちらかという不安なことがある		不安なことはない	
	中山間地域	都市部	中山間地域	都市部	中山間地域	都市部
全 体	31.8	19.6	61.2	63.9	7.0	16.5

※ 令和2(2020)年度広島県地域政策局「中山間地域に関する住民意識調査」による。



◆ 将来への不安の要素（複数回答）

（単位：％）



※ 令和2(2020)年度広島県地域政策局「中山間地域に関する住民意識調査」による。

## (2) 新たな潮流

### デジタル社会の到来

「Society5.0」の到来を踏まえ、国においては次世代通信規格「5G」の基幹インフラとなる光回線を全国に整備するとともに、クラウドやAI、IoT等の革新的な技術を様々な分野に展開し、これまでにないビジネスモデルや新たなサービスなどを通じて、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させるという考えのもとで、デジタルトランスフォーメーション（DX）をスピーディーに進めていくこととしています。

こうしたデジタル化の進展は、中山間地域における物理的な距離のハンディキャップやマンパワーの不足などを「克服できる可能性」を秘めており、今後、地域においては、交通、医療、介護、福祉等の生活サービスの維持・確保に向けて、長期的な視点で、デジタル技術を暮らしの中にどう取り込んでいけるかが重要な課題となります。

また、そのための地域における自助努力を基礎にして、デジタル社会において中山間地域が潜在的な可能性を発揮し、持続可能な地域社会を実現していくためには、「デジタル」から生まれる、地域の枠を超えた新しい暮らしのモデルを、地域全体に横展開していく持続的な仕組みの構築が求められています。

### 《デジタル技術を活用した様々な生活課題への対応イメージ》

**生活交通**  
～新たなモビリティサービスによる生活交通の確保～  
新モビリティサービス：定額制サービス、データ活用による運行効率高度化  
MaaS：定額制サービス、輸送資源活用、目的地との連携

**医療・福祉**  
～遊休施設を活用した医療体制の確保～  
オンライン診療・服薬指導と遊休施設等を組み合わせ、定期的な医療サービスを提供  
遊休施設等：①オンライン診療、②オンライン服薬指導、③服薬支援

**防災・減災**  
～ドローンを活用した防災対策～  
ドローンを活用した、被害情報の共有や緊急物資の配送など、点在する集落間ネットワークシステムを確立

**農地保全**  
～センサーネットワークによる獣害抑制～  
検知情報をメール配信し、迅速な追払いや確保を実現

**移住・定住**  
～AIを活用した移住相談システム～  
AI相談と運動し、相談者のニーズに対応した市町のオススメ情報を提供  
あひいちゃん：広場で、こんな暮らしがしたい！  
市町AI：AI町がおススメです  
連携：こんな暮らしができますよ！  
相談内容にカスタマイズして提供（先輩移住者、仕事、趣味…）

## ウィズ/アフターコロナ時代の新しい価値観

新型コロナ危機により、これまでの密集・密接・密閉といった「集中」を前提とした生活様式やビジネスのあり方が見直されており、リモートワークやオンライン学習、オンライン診療などのデジタル技術を取り入れたサービスの急速な普及と相まって、時間や場所にとらわれない多様な働き方や暮らし方が、これまで以上に注目されています。

こうした中で、里山・里海の豊かな自然と共生し、かつ都市に近接して適切に分散化された本県の中山間地域は、快適でゆったりとした質の高い住環境や仕事も暮らしも悠々と楽しめるストレスフリーなライフスタイルを実現できるフィールドとして、過密化した大都市圏からの移住ニーズや企業の分散需要を満たす有力な選択肢となってきます。

このため、こうした高まりつつある機運を積極的に取り込み、本県の中山間地域が、ウィズ/アフターコロナ時代にふさわしい生活の豊かさを先取りできる地域として広く認知され、そこに暮らし続ける方々にとっても、地域の価値を改めて実感していただくことによって、地域への誇りや愛着の高まりにつなげていく好機としていくことが求められます。

## 《里山・里海のゆったりとしたライフスタイルのイメージ》



## 4 計画推進に当たっての基本的な考え方

### (1) 5年後の目指す姿

中山間地域ならではの資源や特性が再認識されるとともに、地域の価値ある資産として再構築され、大切に引き継がれています。

また、その魅力や豊かさに共鳴し、地域に愛着と誇りを持つ内外の多様な人材によって、将来への「夢や希望」を託す、様々なチャレンジが始まっています。

#### ■ これからの5年間

本県を含め、日本全体が人口減少局面を迎えている中で、中山間地域のこれからの5年間は、「かつてないスピードで進む人口減少」が与える影響により、地域社会の状況が大きく変容することを視野に入れる必要があります。その上で、地域の運営については、地域コミュニティや企業、NPO等の多様な主体と行政が目的を共有し、それぞれが役割を分担しながら、サービスの提供をともに担っていくことを基本に、これまでの延長線上にはない新しい流れを作っていく必要があります。

そのためには、地域の現状を虫の目で見つづきに見ながら、それぞれの実情に応じて、長期的な視点に立った「人の可能性」や「地域の価値」を引き出しつつ、一方で、人口減少下にあっても地域の持続可能性を高めていくため、「地域間の機能分担」や「資源の再配置」など、全体最適化された中山間地域の姿を検討していく必要があると考えています。

#### ■ 未来を切り拓くチャレンジを後押し

こうした考えのもと、これからの5年間で、中山間地域を次世代に託すための力強い土台を築く期間と捉え、誰もが活躍できる機会を得る中で、将来への「夢や希望」につながる新しいチャレンジが次々と起こる中山間地域の実現を目指します。

そのためには、県民一人ひとりが、専らサービスを受ける客体としてではなく、ともに支え合い、地域をつくっていく存在として一歩前に踏み出していただくことが大きな推進力になります。

また、次代を担う人材が、地域ならではの魅力や豊かさを再構築しながら、自ら求める「中山間地域の未来」に向かって変革に挑戦していけば、ピンチをチャンスに変える契機となります。

こうした一人ひとりの前向きな行動や地域社会を変えていくリーダーの持続的な活動が積み重なることによって、地域の持続可能性が高まり、安心の醸成につながっていくものと考えています。



## (2) 基本姿勢

### 地域の基盤や特性を強みとして生かす

中山間地域の多くの人たちは、地域の暮らしについて、落ち着いた雰囲気や気軽に行き来できる人のつながりがあるといった好印象を抱いており、首都圏における地方への移住希望者も、人のつながりを生かした新たなチャレンジや自然の豊かさ、地域の伝統、風土などに対する期待感が高くなっています。

こうした印象や期待に応えていくためには、それぞれの地域が持つ、その地域ならではの資源や特性を中山間地域の「強み」として再認識し、これまで生かしきれていなかった里山の恵みを《資源》として上手く暮らしに生かし、地域内で回していける仕組みをつくることによって、眠っていた価値を引き出していくことが重要です。

このため、都市的な生活環境を目指すのではなく、むしろ都市部にはない魅力としてそれぞれの地域が有する基盤や特性に光を当て、強みとして生かし、市場化していくことで地域の価値向上につなげていきます。

### 価値に共鳴する人を増やし、支え合いを安心につなげる

中山間地域を将来にわたって維持・継承していくためには、地域で暮らしを営む方々や地域と継続的に関わりを持つ外部の方々の存在が不可欠であり、その多くは、中山間地域の価値に共鳴する人たちです。

このため、中山間地域の「価値を維持・向上させる」ことの大切さに共鳴する多様な人材を地域内外で増やし、ともに地域の未来をつくる存在として認め合い、支え合うことによって、安心の醸成につなげていきます。

### デジタルの力を取り込む

中山間地域の価値は、人々の暮らしによって引き継がれていくことが望ましく、そのためには、地域の方々が、現在だけでなく、将来にわたって安心して暮らしを営むことができる環境を維持していくことが求められます。

そのための新たな力となり得る「デジタル社会」の到来は、人口急減に直面している地域の様々な課題を克服できる大きな可能性を秘めています。

このため、これを好機と捉え、新たなデジタル技術を、中山間地域の暮らしの中で分野横断的に実装することによって、新しい時代に対応した暮らしのモデルを創出し、地域における横展開を図っていきます。

### (3) 施策の全体像

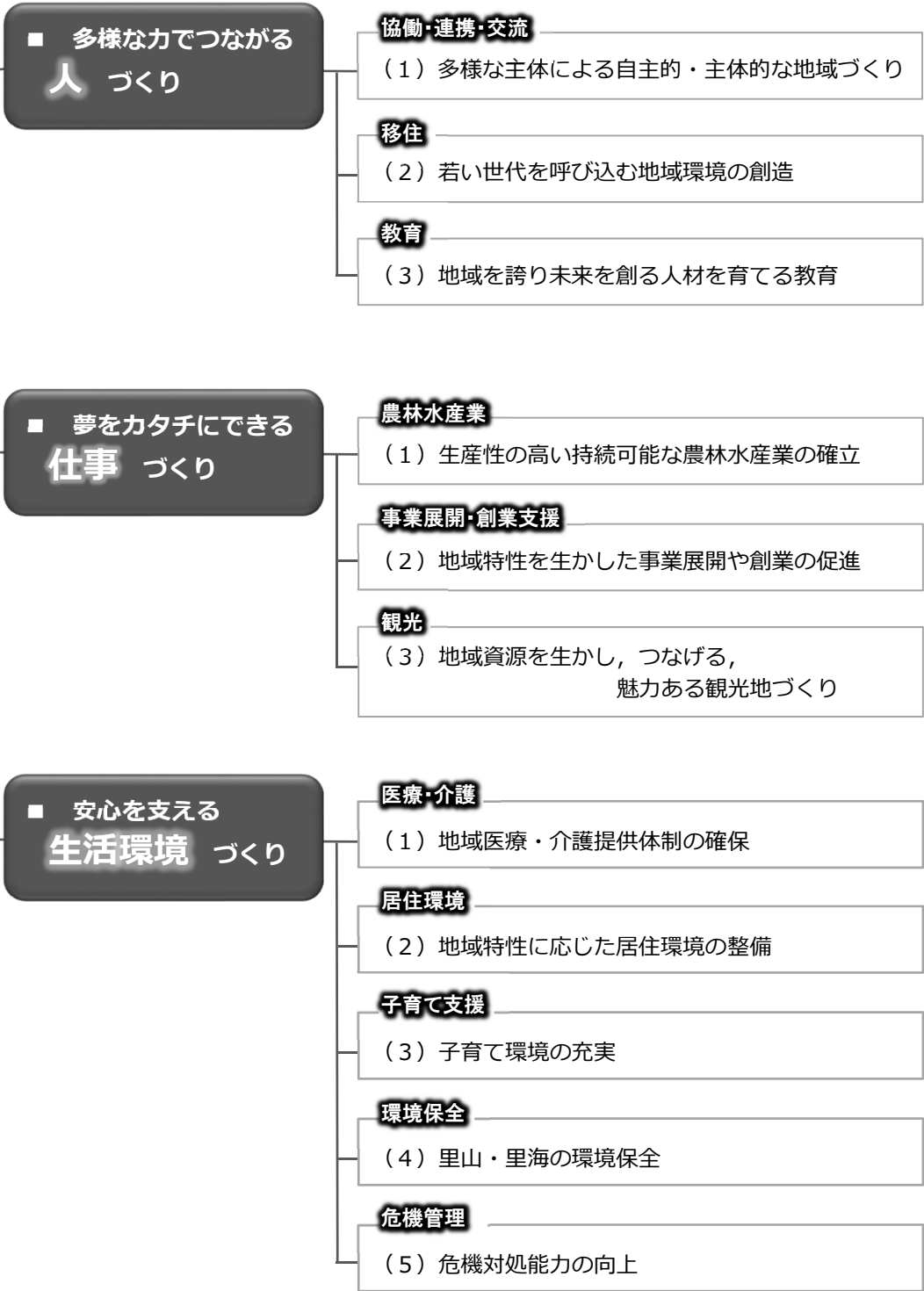
5年後の  
目指す姿

施策の柱 (取組の方向)

施策の小柱(中山間ワーク)

心豊かに、笑顔で幸せな生活を営むことができる中山間地域

将来への「夢や希望」を託す、様々なチャレンジが始まっています  
中山間地域の資源や特性が価値ある資産として引き継がれ、その豊かさに共鳴する人たちによって、



## 5 推進体制

### (1) 県民，市町，県の連携

地域づくりの原動力となるのは，個人，団体を問わず，地域を第一線で支える県民一人ひとりです。このため，「目指すべき姿」の実現に向けて，県民の自主的かつ主体的な取組を基本に，県民，市町，県が密接な連携の下で，総力を結集して中山間地域の振興に取り組むことが重要です。

#### 県民

- 地域課題の解決等に向けた活動への自主的かつ主体的な参加が求められます。
- 中山間地域の価値を共有し，地域内外の多様な主体との積極的な交流・連携が求められます。

#### 市町

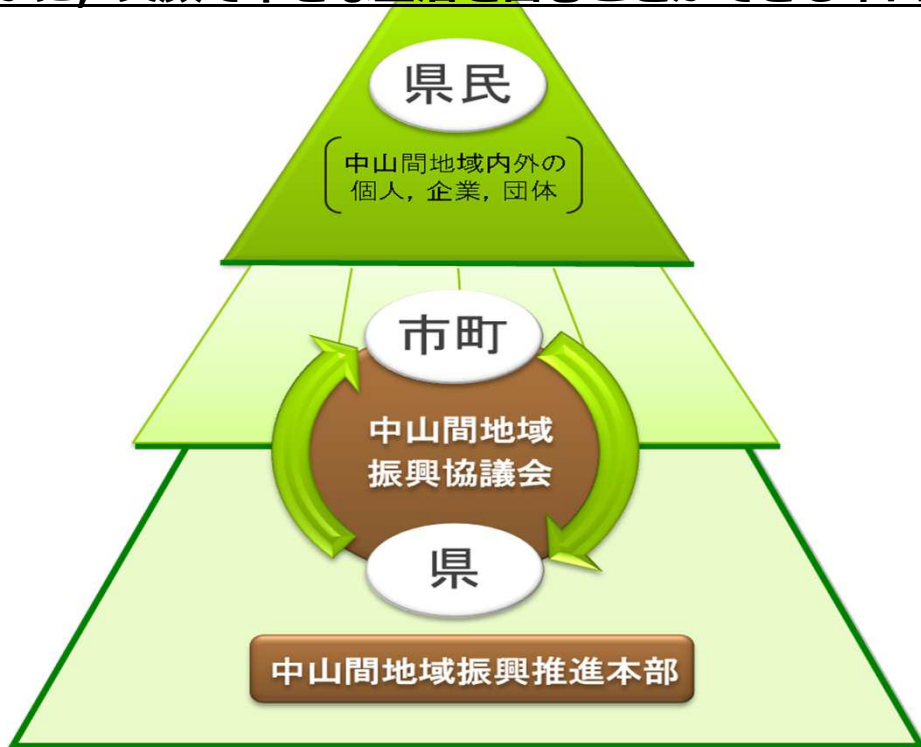
- 地域の多様な主体による自主的かつ主体的な取組を誘導するとともに，関係団体や民間，他の自治体など，多様な主体と連携を図りながら，地域活性化策を積極的に実施します。
- また，必要不可欠な生活基盤の維持・確保に努めます。

#### 県

- 中山間地域の価値や存在意義について，様々な機会を通じて理解の促進と共感の獲得を図ります。
- 中山間地域の振興に関する施策や国の動向，地域づくりの事例などを市町や県民に情報提供するとともに，地域における自主的かつ主体的な地域づくりを積極的に支援します。
- 複数の市町に共通する課題や広域的な課題の解決に向けた支援・調整を行います。  
また，個別の市町や地域では対応が困難な課題の解決や生活基盤の維持・確保に努めます。
- 課題解決に向けて，同様の課題を抱える他県と連携し，広域的な取組を行うとともに，規制緩和を含めた中山間地域の総合的な振興策について，国への提案，要請を行っていきます。

## (2) 推進体制

里山・里海に象徴される人と自然が作り出す中山間地域ならではの資産が、  
守るべき価値あるものとして、内外の人々により引き継がれる中で、  
**地域への愛着と誇りの高まりが、将来への希望と安心につながり、  
心豊かに、笑顔で幸せな生活を営むことができる中山間地域**



### 《行政の推進体制》

#### 中山間地域振興協議会

- ✓ 知事と関係市町の長で構成し、中山間地域の振興に向けて、密接に協議、連携する中で、一体的な振興施策の推進を図ります。

#### 中山間地域振興推進本部

- ✓ 中山間地域の振興を県政の重要な課題として、知事を本部長に、副知事、関係局長等で構成する協議の場を通じて、局間の連携、調整を行います。  
また、中山間地域を取り巻く環境変化に対応して、新たな観点からの施策等の検討を局横断的に行います。



## 第Ⅱ章 施策の推進方向

### ■ 多様な力でつながる人づくり…………… 21

- 協働・連携・交流 (1) 多様な主体による自主的・主体的な地域づくり
- 移住 (2) 若い世代を呼び込む地域環境の創造
- 教育 (3) 地域を誇り未来を創る人材を育てる教育

### ■ 夢をカタチにできる仕事づくり…………… 27

- 農林水産業 (1) 生産性の高い持続可能な農林水産業の確立
- 事業展開・創業支援 (2) 地域特性を生かした事業展開や創業の促進
- 観光 (3) 地域資源を生かし、つなげる、  
魅力ある観光地づくり

### ■ 安心を支える生活環境づくり…………… 34

- 医療・介護 (1) 地域医療・介護提供体制の確保
- 居住環境 (2) 地域特性に応じた居住環境の整備
- 子育て支援 (3) 子育て環境の充実
- 環境保全 (4) 里山・里海の環境保全
- 危機管理 (5) 危機対処能力の向上

※ 「計画推進に当たっての基本的な考え方」(P15～16)に沿って、人口減少下における持続可能な中山間地域を実現していく上で、特に必要な取組を「ポイント」として表記しています。

# 多様な力でつながる人づくり

## 目指す姿

- ◆ 地域に愛着や誇りを持つ人たちの一歩踏み出すためのチャレンジが次々と起こり、共感の輪が生まれています。また、地域に根差したリーダーが育ち、多様な人材のネットワークによって、地域資源を生かし、新たな価値を生み出す主体的な活動が展開されるとともに、地域の価値に共鳴する人たちの外部からの移住が進んでいます。こうした中で、コミュニティの力の再生に向けて、誰もが必要に応じて活躍の機会を得られる地域運営の新しい仕組みが構築され、地域の課題解決につながるモデル的な取組が始まっています。
- ◆ また、地域の資源と呼べるスポーツを通じて、地域ならではの特色を生かした取組が始まり、参加や交流を通じて、自らの地域に「愛着」や「誇り」を持つ人々が増え、地域アイデンティティが高まってきています。
- ◆ さらに、次代を担う子供たちには、学校と地域が連携して、未来を創る人材としての資質や能力を伸ばす機会が確保され、地域に誇りを持ち、将来の担い手として育成される環境が整いつつあります。

## これまでの主な取組成果

協働・連携 ・交流	● 若手リーダーの発掘・育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ひろしま「ひと・夢」未来塾の開講(H27～ 186人)</li> <li>✓ さとやま未来博2017(参画者 13,576人)</li> </ul>
	● 人材プラットフォームの構築	✓ 「ひろしま里山・チーム500」設立(H28～ 345人)
	● 首都圏からの人材確保	✓ ひろしま里山ウェーブ(H27～ 204人, 11市町参加 )
移住・定住	● 移住相談窓口の開設	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「ひろしま暮らしサポートセンター」開設(H26～ 有楽町)</li> <li>✓ 移住希望地域ランキング 2位(R1)</li> </ul>
	● 広島らしいライフスタイル発信	✓ 移住ポータルサイト「HIROBIRO」による情報発信(H27～)
	● AIを活用した相談システム構築	✓ 「あびいちゃん」の試験運用開始(R1.11～)
教育	● 地域の次代を担う人材の育成	✓ 地域に貢献しようとする意欲を持っている中山間地域の県立高校の生徒の割合(H27:48.1% ⇒ R1:62.7%)

協働・連携・  
交流

(1) 多様な主体による自主的・主体的な地域づくり

移 住

(2) 若い世代を呼び込む地域環境の創造

教 育

(3) 地域を誇り未来を創る人材を育てる教育

## 現状と課題

- 本県の中山間地域の集落は、全国に比べて、小規模化や高齢化が大きく進み、地域活動の担い手が不足する中で、草刈・清掃などのコミュニティで行う共同作業や地域に根差した伝統行事等の活動が困難な集落が増加してきています。こうした活動は、地域を運営する機能としてだけでなく、世代を超えた多様な人々が絆を深める場としても貢献しており、引き続き地域の推進役となるリーダーの発掘・育成やネットワーク化によって、地域のつながりや連帯感を醸成していく必要があります。また、人口減少下にあっても地域を支えていけるコミュニティの力の再生に向けて、地域に住む人たちを専らサービスを受ける客体と捉えるのではなく、ともに支え合い、地域の未来をつくる存在と捉え、それぞれの実情に応じて、その主体性が発揮される多様な地域運営の仕組みを構築していく必要があります。
- また、東京オリンピック・パラリンピックを契機とした海外選手の事前合宿の受入れや国際的なスポーツ大会の誘致などを通じて、スポーツへの関心が高まってきていることから、こうした機運を捉えて、スポーツを地域振興に生かしていこうとする地域の主体的な取組を効果的にサポートしていくことが求められています。
- さらに、人口減少が加速する中山間地域においては、次代を担う子供たちが、地域に誇りを持って、新たな担い手として活躍していくことが求められます。このため、子供たちが地域との関わりを通じて、生まれ育った地域への深い愛情や誇りを持ち、自らの創造力や行動力で、これからの時代を切り拓いていく力を身に付けていけるよう、引き続き、地域と連携した教育活動を展開していく必要があります。
- また、東京圏で高まりつつある若い世代を中心とした地方移住への機運を取り込むため、広島らしいライフスタイルの魅力発信などに取り組んできた結果、2019年は移住希望地域ランキング（認定NPO法人ふるさと回帰支援センター公表）で全国2位となりました。こうした中で、近年のデジタル化の進展や働き方改革などを通じた価値観の変化を踏まえ、本県の中山間地域が幅広い層から移住先として選ばれるよう、受入態勢などの一層の充実を図り、広島へのより大きな移住の流れを作り出していく必要があります。

## (1) 多様な主体による自主的・主体的な地域づくり

### ポイント

#### ◆ 地域における《つながり力》の強化と人材の育成・ネットワークづくり

- 地域社会やコミュニティの中で、人と人がつながり、支え合う価値を大切にするため、地域における多世代のつながりや交流を促進するとともに、多様な主体が連携・協働して支え合える地域づくりを進めます。また、地域への愛着や誇りの醸成に向けて、地域において一步前に踏み出すための様々なチャレンジを行っている人たちの活動を地域全体で後押しし、共感の輪を広げていくための取組を推進します。
- 地域づくりのフィールドワークやノウハウを学ぶ人材養成塾などを通じて、地域に根差した活動やコミュニティビジネスなどに取り組む人材の裾野を拡大し、中山間地域の将来を担うリーダーを育成します。
- こうした意欲ある実践者を中心とした人材プラットフォームを基盤として、里山・里海の豊かさを継続的に発信するとともに、その価値に共感し、地域と多様な形で関わる首都圏等の関係人口を拡大していくことによって、中山間地域を内外から支える人材の広域的なネットワークづくりを進めます。
- また、活力あるコミュニティが人々の学習を支え、人々の学習がコミュニティを形成・活性化させるという好循環の確立に向け、公民館や図書館等の社会教育施設を拠点として、地域の学びを支える人材を育成します。

### ポイント

#### ◆ 持続可能な地域運営の仕組みづくり

- 人口減少下にあっても、地域に住む人々が、一人ひとりの不安に寄り添い、それぞれの実情に応じて、主体性を発揮しながら地域づくりに参画できる最適なコミュニティのあり方を検討し、市町と連携して、日常生活の安心につながる持続可能な地域運営の仕組みづくりに取り組む地域を後押しします。
- また、住民の抱える課題に的確に対応するため、多様な主体が連携・協働した、共助による支え合いなどの取組を進めるとともに、地域のリーダーや専門人材等が連携して課題を早期に発見し、解決につなげるための取組を後押しします。

## ポイント

### ◆ スポーツを通じた地域活性化

- スポーツには、健康や体力の維持・増進だけでなく、地域の方々が参加や観戦、交流など様々な形で関わることにより、地域に一体感や活力を醸成する力があります。また、特色あるスポーツを地域づくりに生かすことによって内外からの関心が高まれば、地域ならではの強みとなり、そこに住む方々の誇りや愛着、地域アイデンティティの醸成にもつながります。
- 県内には、地域の資源と呼べるスポーツがありながらも、それを地域振興に十分に生かしきれていない地域や、これから新たにスポーツによる地域活性化を目指そうとしている地域もあります。
- そのため、その両方を併せて、今後、スポーツの可能性を地域振興に生かしていこうとする地域の主体的な取組を尊重しつつ、スポーツアクティベーションひろしま（SAH）が中心となって、県内市町の取組に対して、ノウハウや人脈の提供、財政的支援を行います。
- また、「する」「みる」「ささえる」といったスポーツへの多様な関わり方を促すため、関連情報の発信に取り組む市町や民間・関係団体を支援します。さらに、都市公園における県有スポーツ施設等を活用することにより、スポーツを通じた活力ある地域づくりや都市との交流等を推進していきます。

### ▶ 優れた文化遺産や伝統文化等に触れる機会の充実

- 中山間地域において受け継がれてきた文化遺産や伝統文化を守り、広く発信することで、地域外の人々との交流を通じて、地域への愛着・誇りが形成される環境づくりを推進します。
- 県民の文化・芸術活動の発表の場を通じて、地域の文化活動の継承や活性化を図り、都市も含めた地域間の交流等を進めていきます。

## (2) 若い世代を呼び込む地域環境の創造

### ポイント

#### ◆ 東京圏等からのU・Iターン等の促進

- 新型コロナの影響下におけるテレワークの普及等により、職場に縛られない働き方が増加し、長時間の通勤や密な職場、狭隘な居住環境といった、東京圏等におけるこれまでの働き方や暮らし方の常識が見直されています。
- また、ライフスタイル全体を生涯にわたって大切にする価値観が広がり、その実現に適した地方への移住に関心が高まっています。
- このような状況の中、今後の新たな移住は、自己実現に適した働き方や自分らしい生活が実現できる、高い水準でバランスがとれた暮らしの環境を提供していく必要があります。都市に近接して広がる里山・里海など本県の地域特性を生かして移住ニーズを取り込んでいくことが重要です。
- このため、東京圏等から広島へのU・Iターン等の促進に向けて、デジタルマーケティングや各種SNSを有機的に活用し、様々な新しいニーズに応じて、広島らしいワーク・ライフスタイルの魅力発信を行います。
- また、従来の対面相談や移住イベントに加え、AIを活用した相談対応システムやオンラインイベントを通じて、より多くの移住希望者と、地域の人材や企業とのマッチングを図ります。
- さらに、地域での暮らし方や働き方をサポートするコーディネーターが行う、移住希望者のニーズに応じた地域情報の発信やマッチングを積極的に後押しします。

### ポイント

#### ◆ 受入態勢の整備

- 広島ならではの「都市と自然」が近接したゆとりと魅力ある居住環境を生かし、民間と連携した空き家の掘り起こしや流動化（売買、賃貸）、農地付き空き家などの魅力的なライフスタイルや地域情報の発信、仕事の紹介、二地域居住者のための低廉な住宅管理サービスの創出など、各市町の特長や地域資源の価値に応じた受入態勢の一層の充実を図ります。



### (3) 地域を誇り未来を創る人材を育てる教育

#### ポイント

##### ◆ 地域の次代を担う人材の育成

- 子供たちが、地域との関わりを通じて、地域への愛着や理解を深め、自信を持って地域を語り、次代を担うリーダーとして活躍できるよう、各学校における地域の特色を生かした教育活動を支援します。

#### ポイント

##### ◆ 地域の内外から選ばれる魅力ある学校づくり

- 豊かな自然などの都市部にはない環境を生かした教育の推進など、中山間地域の学校が、地域と連携しながら、内外から選ばれる魅力ある学校となるために実施する特色づくりを支援します。
- また、地理的な条件や学校規模に捉われることなく、地域を越えた相互交流や多様な学びの選択肢を提供できるよう、各学校におけるデジタル技術の活用を推進します。

#### ポイント

##### ◆ 里山・里海体験の推進

- 里山・里海が持つ豊かな資源や魅力を生かした多様な体験活動の推進を通して、児童の主体性や社会性などを育むとともに、体験先の地域の人々や学校との交流を通じてコミュニケーション能力などを高め、豊かな心とたくましく生き抜く力を育てます。

# 夢をカタチにできる仕事づくり

## 目指す姿

- ◆ 中山間地域に暮らしながら、働き続けられる環境が維持され、多様な企業や人材が、地域ならではの資源や基盤を生かして、新たな事業にチャレンジしています。
- ◆ とりわけ、中山間地域の基幹産業である農林水産業では、デジタル技術を導入しながら生産性を向上させ、地域資源や雇用労働力を有効に活用しつつ規模拡大に取り組むなど、持続可能な企業経営にチャレンジする担い手が増加しています。
- ◆ 観光面では、サイクリング、カヤックなどの体験や地域で育まれてきた伝統芸能の鑑賞、情緒あふれる古民家での宿泊体験など、中山間地域の資源を生かした観光サービスや観光商品等が充実し、国内外からの多くの観光客が周遊しています。

## これまでの主な取組成果

元気な 農林水産業	● 県産農産物の生産拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ キャベツ生産額の倍増(H26:2億円 ⇒ H30: 4億円)</li> <li>✓ レモン生産額の倍増 (H22:9億円 ⇒ H29:17億円)</li> </ul>
	● 経営力の高い担い手の育成	✓ 農産物生産額のうち経営力の高い担い手のシェアが増加 (H27:38.7% ⇒ H30:40.5%)
	● 県産材の供給拡大	✓ 住宅等への県産材供給量が2倍以上増加 (H27:1.9万m <sup>3</sup> ⇒ H30:4.5万m <sup>3</sup> )
	● 全国シェア6割を占める 広島かきの生産増加	✓ 広島かきの生産額増加 (H22:154億円 ⇒ H30:169億円)
事業展開・ 創業支援	● サテライトオフィスの誘致促進	✓ 2年間で10件のサテライトオフィスが進出決定 (H30:4件, R1:6件)
	● 創業件数の増加	✓ 4年間で84件の創業 (H27:17件, H28:27件, H29:22件, H30:18件)
観光	● 総観光客数の増加	✓ 全域過疎市町への総観光客数が増加 (H23:12,955千人 ⇒ H29:15,840千人)
	● 体験型教育旅行の受入拡大	✓ 体験型教育旅行の受入人数が約6倍に増加 (H25:1,800人 ⇒ H30:10,518人)



農林水産業

(1) 生産性の高い持続可能な農林水産業の確立

事業展開・  
創業支援

(2) 地域特性を生かした事業展開や創業の促進

観 光

(3) 地域資源を生かし、つなげる、魅力ある観光地づくり

## 現状と課題

- 農林水産業においては、規模拡大等を通じ担い手が生産額を増加させるなどの動きがみられます。しかしながら、人口減少、少子・高齢化が進むことから、生産基盤の維持が困難となるリスクが顕在化してくると考えられます。このため、担い手の経営力や生産性を向上させることで、収益性の高い持続可能な経営を確立し、こうした経営体が兼業農家などの多様な主体と連携しながら中山間地域の農林水産業を支えていく必要があります。
- また、豊かな自然と共生し、開放的でストレスフリーな中山間地域の環境は、ウィズ/アフターコロナ時代における地域の強みであり、過密化した大都市圏からの企業の分散需要を満たす有力な選択肢となることから、新たなワークスタイルの受け皿となるサテライトオフィスの誘致などに積極的に取り組んでいく必要があります。
- 地域における経済活動等の受け皿として欠くことのできない中小企業については、人材の不足や事業承継が経営上の大きな課題となっており、今後もその状況は一段と厳しさを増すことが見込まれることから、専門的な知見やスキルを有する外部人材の力を効果的に取り込むことによって、様々な課題を抱える中小企業の新たな成長につなげていくことが求められます。
- さらに、新型コロナによる社会経済活動への影響が長期化する中で、インターネットを通じた配送サービスなどの需要が増加しており、こうしたニーズを積極的に取り込み、新たなビジネス展開や販売チャネルの多様化を促進することによって、地域産業の活性化につなげていく必要があります。
- また、観光については、新型コロナの拡大によって、安全・安心へのニーズが高まるなど、観光客の意識や価値観が変容していることから、ウィズ/アフターコロナ時代における「新しい生活様式」なども踏まえながら、中山間地域ならではの価値を提供することによって、さらなる観光需要の創出につなげていく必要があります。

## (1) 生産性の高い持続可能な農林水産業の確立

### ポイント

#### ◆ 農業 ～地域の核となる力強い経営体の確保・育成

- 経営体個々の発展段階に応じて専門家派遣や生産工程管理等への支援を行うなど、企業経営体の育成に取り組みます。また、生産から流通、加工、消費に至るまでのデータを相互活用するスマートフードチェーンの構築に取り組み、効率化を図ります。
- 需要に応じた高収益作物の生産拡大を推進するとともに、ロボットやドローン、複合環境制御技術等の導入を支援することで、生産性の向上を図ります。
- 全国から意欲ある若い人材を呼び込むために、本県農業の魅力を積極的に発信するとともに、相談体制や実践型の研修制度等を充実し、新規就業者の確保・育成を強化します。また、組織運営のノウハウや資金力を有する企業の農業参入も促進します。
- 担い手が希望する農地と地権者の意向の一元管理に取り組み、効率的なマッチングを進め、担い手の規模拡大につなげます。また、スマート農業に対応できるようほ場の大区画化や水田の畑地化等の基盤整備を行い、生産性の高い優良農地への転換を進めます。

### ポイント

#### ◆ 畜産業 ～持続可能な広島和牛生産体制の構築

- 広島血統を代表する比婆牛の価値要素をさらに高め、首都圏の著名シェフの高い評価を発信することにより、県内高級飲食店での取り扱いの拡大を進め、ブランド化を図ります。
- 肥育・繁殖経営の規模拡大、受精卵産子の安定供給、リタイヤする経営の継承など、生産体制を構築するとともに、スマート農業やGAPなどのモデル波及に取り組むことで、生産性を高め、持続性の高い企業経営体の確保・育成を進めます。

## ポイント

### ◆ 林業 ～森林資源経営サイクルの構築・森林資源利用フローの推進

- 森林の循環利用のサイクルを構築するため、航空レーザ測量データ解析結果を基に、林業経営適地を特定し、林業経営体への集約化を進めるとともに、森林経営を担う長期的視点を有した経営力の高い林業経営体の育成を進めます。また、森林のデジタル情報基盤の構築やIoT技術を活用したシカ被害抑制対策など、再生林を確実に実施するために必要な技術の確立を進めます。
- 「広島県県産木材利用促進条例」に基づき組織化した「ひろしま木づかい推進協議会」を中心として、住宅に加え、公共建築物や店舗等の木造化・木質化、木製家具等での高付加価値製品の開発や販路拡大に取り組みます。

## ポイント

### ◆ 水産業 ～持続的かつ安定的な水産資源の生産供給体制の構築

- デジタル技術を活用したかき生産の効率化や安定化を図るとともに、養殖資材の適正処理など環境に配慮した養殖の推進により国際認証等の取得を進め、海外輸出にも対応可能な持続的なかきの生産体制の構築を図ります。
- 水産資源の管理や漁場環境の整備、最先端の漁獲技術の導入などにより、本県及び瀬戸内海全体での水産資源の回復と保全を図り、安定的な漁獲量を確保します。また、新鮮さや多彩な魚種を有する強みを生かして、瀬戸内の地魚のブランド力の向上に取り組みます。

### ▶ 持続的な農業生産活動の推進

- 農地・農業用施設を保全していく活動や、個々の集落に適した鳥獣被害防止対策など、担い手と兼業農家などが連携して、地域農業を維持する取組を支援します。また、中山間地域農業を活性化させるため、食育や農業体験などの地産地消の取組により、農業を軸とした交流人口の拡大を図ります。
- さらに、新型コロナ後は、「適切な分散」という中山間地域の価値を活かしたビジネスモデルに取り組む農林水産業者を支援するとともに、安全・安心な農林水産物に対する関心が更に高まることが予想されることから、安定的かつ持続的な供給を図ります。

## (2) 地域特性を生かした事業展開や創業の促進

### ポイント

#### ◆ 新たな事業展開に向けたチャレンジ支援

- 時間や場所にとらわれない柔軟な働き方や仕事も暮らしも充実させるワークスタイルへの関心の高まりを受け、多様な人材のビジネス展開や働く場の拡大に向けて、里山ならではの環境やアクティビティを生かした戦略的な取組を推進していく必要があります。
- このため、地域の価値に共鳴するビジネス人材の新たなチャレンジに向けて、創業支援ポータルサイトによる情報発信や、創業フェスティバルの開催などを通じた潜在的創業希望者の拡大を図ります。また、ひろしま創業サポートセンターを中核機関とした、行政、経済団体、金融機関等で構成する「オール広島創業支援ネットワーク」による創業支援や、（公財）ひろしま産業振興機構等の既存制度の活用による新たな事業展開の促進を図ります。
- さらに、中山間地域への進出に意欲を持つ企業のサテライトオフィス誘致に取り組む市町を支援するとともに、企業の人材確保に向けて、即戦力となる県内外の専門人材（エンジニア等）とのマッチングの仕組みを構築します。

### ポイント

#### ◆ 中小企業の成長支援

- 中小企業の人材確保や戦略的な事業展開に向けて、プロフェッショナル人材とのマッチング支援を推進するとともに、多様なスキルや専門的な知見を生かして企業の課題解決に貢献しようとする首都圏等の副業・兼業人材と地域の事業者のマッチングの仕組みづくりに取り組む市町を支援し、意欲ある事業者の新たな成長を後押しします。
- また、専門家チームによる集中支援や技術・経営力評価書の発行を通じた経営支援、成長のための資金支援を実施します。加えて、サービス産業の生産性向上に向けたデータの分析や活用支援、イノベーションの創出に向けた組織づくりを支援します。

## ▶ 雇用機会の創出・就業促進

- ひろしましごと館におけるキャリアコンサルティングや職業適性診断，県立高等技術専門校における職業訓練等を通じて，若者の就業促進を図ります。また，働く意欲のある高齢者が，これまで培った能力や経験を活かし，生涯現役で活躍し続けられる就労支援に取り組みます。
- 中山間地域の立地企業に対し，地元雇用を奨励するとともに，助成制度を活用した産業団地や民間遊休地等への企業誘致を促進します。
- 中山間地域において，女性が，希望するワークスタイルや結婚・出産・子育てなどのライフステージに応じた自分らしい働き方を実現できるよう，女性の就業継続支援や男性の育児休業の取得促進に取り組みます。

## ▶ 地域資源の販路・消費拡大

- 新型コロナ危機の影響を踏まえ，販売のリスク分散や，地域特性を生かした質の高い農林水産物・加工品の販路拡大を図るため，インターネット等を活用した新たな販売チャネルの確保に取り組む意欲ある事業者を支援します。
- 地域の中小企業の経営指導を担う商工会等が，地域資源を活用した商品開発や新事業展開など事業者に通じた経営課題等を解決するための取組を支援します。
- 県内の伝統的工芸品の展示会への出展を支援するなど認知度の向上に取り組むとともに，「BUYひろしま」を通じて，県内製品の消費拡大に向けた取組を推進します。

### (3) 地域資源を生かし、つなげる、魅力ある観光地づくり

#### ポイント

##### ◆ 国内外の観光客に向けた観光資源の磨き上げと周遊促進

- 新型コロナの影響により、密を避け、近場や自然の中での観光へ関心が高まっている中、四季折々のアクティビティだけではなく、里山や里海の自然と人々の暮らしが一体となった情景、神楽・花田植等の地域で受け継がれてきた伝統文化や伝統行事、古い歴史的景観を留める町並みや港町といった魅力を通じた、中山間地域ならではの価値を提供します。こうした考えのもと、観光客の滞在や周遊に繋がる観光プロダクトの開発に取り組み、観光地としてのさらなる魅力の向上を図ります。
- 国内外の観光客が、快適かつ安全・安心に、周遊観光を楽しむことができるよう、受入環境の整備に取り組みます。
- 瀬戸内サイクリングロード、やまなみ街道サイクリングロードの魅力向上を図るため、環境整備を推進します。

##### ▶ 観光資源をつなぐ道路ネットワークの形成

- 移動の円滑化による来訪者の満足度向上を図るため、高速ICや広島空港と観光地、観光地間をつなぐ道路における渋滞箇所や狭隘区間の改善を推進します。また、情報発信・地域連携拠点としての道の駅の機能向上を進めていきます。



# 安心を支える生活環境づくり

## 目指す姿

- ◆ 医療・介護の資源に限りがある中で、安心して質の高い医療を受けることができるよう、基幹的なへき地医療拠点病院が中心となった、他の中小規模の医療機関への医師派遣や広域的な人材育成などを通じた地域の医療機関のネットワークの構築、デジタル技術を活用した診療支援等により、医療提供体制の強化が進んでいます。
- ◆ また、介護を必要とする人も、住み慣れた身近な地域で安心して暮らすことができるよう、要介護者の状態に応じて、地域の医療・介護関係者が連携した最適な組み合わせで、在宅医療や介護サービスなどが提供されています。
- ◆ 地域や関係団体、企業、行政が連携して、日常生活に直結する様々なサービスについて、デジタル技術を活用して効率的に提供するための仕組みづくりが進み、スマートな里山づくりに向けたモデル的な取組が中山間地域全域に広がり始めています。
- ◆ とりわけ、交通アクセスについては、広域的な道路網と地域内の交通基盤が整備され、地域と都市を結ぶ広域幹線交通が維持されているとともに、新たな交通サービスの普及と地域の実情に応じた交通再編が進み、買物や通院等の日常生活の移動が確保されています。
- ◆ ネウボラを通じた子供や子育て家庭を支援する環境の構築に向けて、ほぼすべての市町にネウボラの拠点が設置され、子育て家庭に関わる関係機関と市町のネウボラ拠点との間において、必要な情報が共有されています。
- ◆ 里山・里海の豊かな自然環境や水源かん養などの機能が、引き続き、維持・保全されています。また、災害を未然に防止し、局地的豪雨や地震、高潮等による災害時の被害を最小限にするための防災施設の整備が計画的に進むとともに、災害から命を守るための行動が実践されています。
- ◆ また、新型コロナ等による健康危機事例を踏まえ、平常時から健康危機の発生を未然に防止するための監視業務が適切に行われるとともに、緊急事態に備えた医療提供体制など、健康危機に適切に対応するための仕組みが構築されています。

## これまでの主な取組成果

### 医療・介護

- 若手医師の確保  
(中山間地域への配置)
- ✓ ふるさと卒卒業医師等の配置 (R2 : 30人)
- ✓ 自治医科大学卒業医師の配置 (R2 : 21人)

高齢者が多い中山間地域においては、自然減を中心とした人口減少を今後も見込まざるを得ず、人口減少に伴う様々な制約等を踏まえた場合、地域によっては、一律の行政サービスを継続的に提供していくことが困難となることも見込まれるなど、サービス供給力の低下が懸念されています。

このため、以下の小柱に沿った取組を進めながら、並行して、日常生活に必要なサービス機能の最適化を視野に入れた、安心して暮らせる生活環境のあり方を検討します。





## 現状と課題

- 人口減少と高齢化が加速する中山間地域では、医療・介護、交通手段や子育てなどの様々なサービスを供給する上において、限られた人的資源で日常生活の安心をいかに確保していくかが、大きな課題となっています。
- 医療については、無医地区をはじめ、医師不足の問題が解消されておらず、通院が困難となる高齢者が増加していることから、地域の医療を担う医師の継続的な確保やデジタル技術を活用した診療支援などの取組により、居住地に関わらず必要な医療サービスが受けられる環境整備を進めていく必要があります。また、在宅等で医療や介護等が必要な高齢者の増加が見込まれる中で、地域の実情に応じた福祉・介護人材の確保等を通じた「地域包括ケアシステム」の継続・強化が求められています。
- さらに、集落機能の低下に伴い、空き家や里山の財産管理等の新たな需要が発生するとともに、交通手段や買物環境の確保など生活支援に関わる需要の増大が見込まれています。こうした中で、急速に開発が進むデジタル技術は、担い手不足が深刻化する中山間地域の条件不利性を改善し、様々な課題を克服していく上で大きな可能性を秘めています。

このため、デジタル技術を積極的に活用し、地域における生活サービスの効率化・高度化を図ることによって、快適性や利便性の高い新しい暮らしのモデルにつなげていくことが重要です。
- また、中山間地域における日常生活に不可欠な生活交通や下水道などのライフラインの維持・継続に向けた新たな体制や仕組みづくりが求められます。
- 子供と子育て家庭に関する切れ目のない見守り・サポート体制である「ひろしま版ネウボラ」の展開に当たっては、中山間地域の実情に応じた取組手法の確立や、必要な人材の確保・育成など、市町の取組を積極的に支援していく必要があります。
- 環境保全については、手入れ不足の人工林や放置された里山林などによる森林の公益的機能の低下が懸念されています。また、地球温暖化の進行に伴う大雨災害の頻発や生態系の分布域の変化等に加え、不法投棄による里山の荒廃のおそれや海洋プラスチックごみによる里海への影響などが懸念されており、こうした影響を考慮した里山・里海の環境保全に努めていく必要があります。
- また、本県は、全国最多の土砂災害警戒区域を有しており、大規模災害への備えが喫緊の課題となっています。さらに、世界的な流行を背景として、国内においても全国で新型コロナが拡大しており、こうした健康危機に対するリスクも踏まえた、危機管理体制の強化に万全を期すことが求められています。

## (1) 地域医療・介護提供体制の確保

### ポイント

#### ◆ 医師等医療従事者の確保・育成

- 全国トップレベルの高度・専門医療を提供できる中核的な機能を県内に整備することで、若手医師を中心に医師を確保するとともに、確保・育成した医師を医育機関との連携により中山間地域へ派遣する仕組みを構築します。
- ふるさと枠等地域医療を志す医学生に対して広島県医師育成奨学金を貸与するとともに、広島大学医学部地域医療システム学講座による卒前教育の充実や将来の専門医取得を踏まえたキャリアプランの作成などを通じて、地域医療に対する不安等を解消し、モチベーションを高めて、中山間地域等での勤務が行えるよう、卒後も含めた支援を行い、中山間地域の医療を担う医師を計画的に育成します。
- 自治医科大学卒業医師の後期臨床研修の充実や専門医取得に資する勤務先への派遣など、地域ニーズに応えつつキャリア形成にも配慮した派遣調整を行うことで、義務年限修了後においても、県内の中山間地域等の医療機関に継続して勤務するなど、県内への定着促進を図ります。
- 中山間地域における医師の確保と定着促進を図るため、広島県地域医療支援センターを中心に、就業希望者への相談・就業あっせんや県内外の医師のネットワークづくりなどの取組を市町、医師会、大学と連携しながら推進します。

## ポイント

### ◆ 医療連携体制の維持・強化

- 基幹的なへき地医療拠点病院が地域内の他の中小規模の医療機関への医師派遣や広域的人材育成などを通じた地域の医療機関のネットワークを構築することで、中山間地域の医療提供体制を確保します。
- 県内全域で安心して適切な医療を受けられるよう、安全性が担保されたオンライン診療・服薬指導の普及に取り組みます。また、デジタル技術を活用した診療支援の取組を支援し、地理的障壁の解消や高度医療へアクセスできる環境を促進します。
- 無医地区等の住民の受療機会を充実させるため、「広島県北部地域移動診療車」の運営を支援するとともに、離島における住民への医療提供を維持するため、「瀬戸内海巡回診療船・済生丸」の運営を支援します。
- 感染症発生時において、必要な医療サービスが提供できるよう、感染症指定医療機関・協力医療機関を核とした医療提供体制を整備します。

## ポイント

### ◆ 地域包括ケア体制の確立

- 地域の特性・実情に応じて、地域包括ケアシステムの質の向上を図るため、在宅医療・介護連携の推進、自立支援型ケアマネジメントの普及、生活支援体制の整備等について、市町支援に取り組みます。
- 介護人材の確保・定着・育成に向け、行政・法人等関係機関が連携して、合同求人説明会や地域循環型の就職面談会を開催します。また、福祉・介護が選ばれる業界となるよう、職場環境を改善した優良法人の認証制度など魅力ある職場づくりや小中高大学への出前授業などの若者を中心とした県民への理解促進を図ります。
- 介護記録のデジタル化やロボットの導入によって、介護保険サービスの質を向上させるとともに、現場の業務改善や介護従事者の負担軽減に取り組みます。

## (2) 地域特性に応じた居住環境の整備

### ポイント

#### ◆ デジタル技術を活用した暮らしの向上

- 将来にわたって安心して暮らしを営むことができる環境を維持していくため、日常生活に直結する様々な分野において、デジタル技術を活用した新たな生活サービスを導入しようとする市町を支援し、新しい時代の暮らし全般にわたる全体最適を目指した「スマート里山・里海」の実現につなげていきます。
- また、そのための共通基盤となるデジタルインフラについては、光ファイバー網をはじめとする超高速ブロードバンド基盤等が、中山間地域全域で確実に整備・維持管理されるよう取組を進めます。

### ポイント

#### ◆ 持続可能な生活交通体系の構築

- 中山間地域における生活交通路線は、日常生活に不可欠なものであることから、国や市町と連携して、地域を支える幹線的なバス路線の維持・確保を図るとともに、地域の実情に応じて必要とされる生活交通のあり方を検討します。また、デジタル技術を活用したMa a Sなど、新たな交通サービスの導入に向けた取組や、住民自らが主体となって地域の移動を支えていくための取組への支援を通じて、より持続可能性の高い生活交通への再編を促します。
- 地域の生活や経済活動を支えている鉄道ネットワークを地域資源として活用し、地域交流の拡大や、地域の魅力を向上させる取組を支援します。
- 離島住民にとって必要不可欠な本土への唯一航路や島しょ地域の暮らしや経済活動を支える生活航路について、国や市町と連携して、将来にわたって安定的な維持・確保を図ります。また、港湾施設について必要な改修を行います。

## ポイント

### ◆ 社会環境の変化に対応したライフラインの維持

- 将来にわたって安心・安全な水を安定的に供給するため、小規模集落における継続的な水供給に向けた市町への情報提供を行います。また、「広島県水道広域連携推進方針」に基づき水道事業の広域連携の取組を進めます。
- 公共下水道，農業・漁業集落排水，浄化槽などの汚水処理施設については、「広島県汚水適正処理構想」に基づき計画的に整備を進めます。また，計画的かつ効率的な改築更新及び維持管理を行うことによって，地域の快適な生活環境の確保や水質の保全を図ります。
- 汚水処理施設の持続可能な運営に向けて，「施設や維持管理の広域化・共同化」を進めるための計画を策定し，これに基づく広域化・共同化によって，汚水処理に係る経費等の効率化を図り，事業運営の健全化に努めます。

### ▶ 中心地と周辺地域等の連携を支える基盤整備

- 中山間地域に住む人が，安全で快適な生活を享受できるよう，引き続き，地域拠点と周辺地域等を結ぶ道路の整備やバス路線 1 車線区間の解消に向けた取組など，地域の実情に応じた効率的な道路整備を推進していきます。

### ▶ 交番・駐在所による地域の治安の確保

- 地域住民の身近な不安を解消する機能を引き続き果たすため，交番・駐在所勤務員による巡回連絡，警ら等の警察活動を行うとともに，人口の状況や治安情勢の変化に応じて，交番・駐在所の計画的な整備を行い，住民が安全に安心して住み続けることができる地域づくりを推進します。

### (3) 子育て環境の充実

#### ポイント

##### ◆ 妊娠期からの切れ目のない見守り・支援の充実

- 母子保健と子育て支援が一体となった見守り・サポート体制である「ひろしま版ネウボラ」を構築するとともに、子育て家庭に関わる全ての医療機関，保育所・幼稚園，地域子育て支援拠点と連携し，子供たちを多角的・継続的に見守り・支援する仕組みを構築します。
- また，その展開に当たっては，中山間地域の実情に応じた取組手法を確立するなど，地域に寄り添った支援のあり方を検討します。
- 新型コロナ危機後の変化等に対応するため，子育て中の親や妊産婦が，対面だけでなく，オンラインやSNS等でも気軽に相談・交流できる環境の整備に取り組みます。

##### ▶ 子供の居場所の充実

- 中山間地域においては，人口の減少に伴い，保育所等を利用する乳幼児も減少していることから，保育所等の広域化や，国の「子ども・子育て支援新制度」による地域型保育事業（事業所内保育施設・小規模保育施設等）の設置など，地域の実情に合わせた保育サービスの提供に取り組みます。また，地域における保育士の確保と処遇改善，資質の向上に向けた取組も進めていきます。
- 乳児から幼少期までの子供の心と体のバランスある成長を促すため，中山間地域の豊かな自然環境を生かして，自然体験活動を中心とした子育て・保育，乳幼児期教育を推進します。
- また，保護者が就労等により昼間家庭にいない小学生については，生活・遊びの場である放課後児童クラブや，地域住民などの参画を得て学習や交流等を行う場である放課後子供教室の提供に取り組みます。
- 子供が安心して過ごせる生活の場や体験・交流活動の機会を切れ目なく確保するため，市町の取組を支援していきます。

## ▶ みんなで子育てを応援

- 地域の子育て支援者・団体が、ネウボラなどの支援機関と連携できる仕組みを構築し、子育て家庭が必要とする支援につながるよう取り組みます。
- また、新型コロナや災害等による外出自粛時にも、子育て家庭や地域の子育て支援者などが、オンラインで交流、相談できる環境の整備に取り組みます。
- 企業や団体等による「子育て応援 イクちゃんサービス」の更なる普及や地域における子育て支援の活動を促進し、地域社会全体で子育てを応援する機運を醸成します。
- 子育てに関する必要かつ正確な情報が、子育て家庭のニーズに沿った形で欲しいときにワンストップで得られるよう、利用しやすい環境をつくり、情報を発信していきます。



## (4) 里山・里海の環境保全

### ポイント

#### ◆ 森林の公益的機能の維持・発揮

- 森林の公益的機能の維持・発揮に向けて、県民生活に影響が大きい手入れ不足の人工林を集中的に整備するとともに、所有者の施業意思のない森林や所有者が不明な森林の公的管理に努めます。
- また、地域住民等が里山林を活用しながら継続的に管理する取組を支援するとともに、その取組を県内全域へ展開していきます。

#### ▶ 地域資源を活用した再生可能エネルギーの利用促進

- 本県の豊富な森林資源を生かし、市町や住民団体などが一体となって、里山の手入れによって搬出された未利用材を地域で熱利用するなど、地球温暖化の防止に向けて木質バイオマス等の再生可能エネルギーの利用を促進します。

#### ▶ 生物多様性の保全

- 野生生物保護に関する県民の理解を高めるため、野生生物の生息・生育状況調査を実施して情報共有するとともに、地域での生物多様性の保全につながる活動を支援します。また、鳥獣捕獲の担い手である狩猟者の高齢化等による不足を補うため、新たな狩猟者を確保・育成し、野生鳥獣の適切な管理に努めます。
- 新しい生活様式や県民のニーズを踏まえ、自然公園等施設が県民のよくばりライフの実現に貢献できるようその魅力を高めるとともに、安全・快適に利用できるよう、定期的点検や計画的な維持修繕等を進めていきます。



## ▶ 廃棄物の適正処理と海洋プラスチックごみの流出防止

- 一般廃棄物処理施設については、計画的な整備，適正・効率的な維持管理に係る市町への技術的支援を行います。また，市町が実施する不法投棄防止対策への支援により，不法投棄の未然防止を図るとともに，陸域・海上・上空からのパトロールなどにより，不法投棄等の不適正処理の早期発見を図り，原因者の究明や改善指導を徹底します。
- 海洋プラスチックごみの流出防止に向けて，使い捨てプラスチックの使用量削減に取り組むため，紙や海洋生分解性素材等の代替材への転換を進めていきます。また，県民，企業等に対し，海ごみに関する情報の発信・共有を進めていくとともに，活動団体と連携し，漂着ごみ等の清掃・回収を推進します。

## (5) 危機対処能力の向上

### ポイント

#### ◆ 災害対処能力の向上

- 防災施設の着実な整備や老朽化が進行する既存インフラの適正な維持管理など、ハード対策等による事前防災をAI/IoTなどのデジタル技術等を最大限に活用しながら、効率的かつ効果的に進めます。また、緊急輸送道路等の耐震補強や法面对策を実施することにより、災害に強い道路ネットワークを構築していきます。
- 適切な避難行動につながるよう、防災教育を通じて災害や避難に関する知識が世代を超えて承継できる仕組みづくりに取り組みます。また、デジタル技術やビッグデータ等を活用し、個々のニーズや地域特性に応じた最適な情報をリアルタイム・プッシュ型で発信するなど、きめ細やかな災害リスク情報の提供に取り組んでいきます。
- 地域の防災力を向上させるため、自主防災アドバイザーや防災リーダーの育成などに積極的に取り組むとともに、県内すべての自主防災組織において呼びかけ体制の構築に取り組みます。
- 災害の前兆の早期察知による被害の未然防止と、救急救命活動の配置の最適化による発災時の被害の最小限化に向けて、デジタル技術等を活用しながら、関係者間での迅速な情報共有を図ります。さらに、避難所等での感染リスクを恐れ、県民が避難行動を躊躇することがないように、避難所での生活環境の改善、複数の避難先の確保などに取り組みます。

### ポイント

#### ◆ 健康危機対応能力の強化

- 感染症発生時においても必要な医療サービスが提供できるよう、二次保健医療圏域ごとに関係機関が連携して迅速かつ的確な対応を図るための研修会を開催し、感染症指定医療機関及び協力医療機関を核にした医療提供体制の充実・強化を図ります。
- また、感染が拡大する最中であっても、必要な医療・介護・福祉機能を維持・確保していくため、県や市町、関係団体をはじめ、県内外の関係機関が緊密に連携して医療機能等の役割分担を行い、県内全域で患者の受入れを調整します。

## ▶ インフラ老朽化対策の推進

- 中山間地域においても、橋梁等の社会資本の老朽化が進行していることから、新技術の活用促進によるライフサイクルコストの縮減や維持管理の一層の効率化を進めることにより、適切な維持管理を図ります。
- また、集中豪雨などによる甚大な被害の頻発化や、人口減少等の加速による技術者の不足が懸念されるため、デジタル技術を最大限に活用し、道路、橋梁などの公共土木施設等の整備・維持管理を国・県・市町の管理者の枠を超えた連携により効率的かつ効果的に進めることや、官民の連携による最適なインフラマネジメントに取り組みます。

## 分野別の参考指標

### 多様な力でつながる人づくり

施策の小柱	主な指標	令和元年度 (現状)	令和7年度 (目標)
◇ 多様な主体による自主的・主体的な地域づくり	人材プラットフォーム「ひろしま里山・チーム500」の登録人数	345人	680人
	地域の資源と呼べるスポーツを活用して地域活性化を図っている市町数	3市町	13市町
◇ 若い世代を呼び込む地域環境の創造	ふるさと暮らし希望地域都道府県ランキング	2位	5位以内を維持
	県外からのU I ターン転入者数	6,375人	6,559人
◇ 地域を誇り未来を創る人材を育てる教育	地域に貢献しようとする意欲を持っている中山間地域の県立高校生徒の割合	62.7%	80.0%

※ 地域を限定していない「主な指標」の目標値は、全県を対象とする数値。

## 夢をカタチにできる仕事づくり

施策の小柱	主な指標	令和元年度 (現状)	令和7年度 (目標)
◇ 生産性の高い持続可能な 農林水産業の確立	農業生産額	712億円 (平成30年度)	736億円
	広島和牛を肥育する 企業経営体の飼養頭数	1,800頭 (平成30年度)	2,730頭
	集約化された林業経営適地の面積	0ha	1.8万ha
	海面漁業*生産額800万円以上の 担い手生産額 〔※いわしを除く〕	7億円	11億円
◇ 地域特性を生かした 事業展開や創業の促進	行政・経済団体・金融機関等連携による 「オール広島創業支援ネットワーク」を 利用した創業件数(全域過疎市町)	18件	現状水準を 維持
	外部人材を活用する中小企業数 (全域過疎市町)	-	290社
◇ 地域資源を生かし、つなげる、 魅力ある観光地づくり	年間総観光客数(全域過疎市町)	1,543万人	令和4年までに 1,709万人 以降も同様の 高水準を維持

※ 地域を限定していない「主な指標」の目標値は、全県を対象とする数値。

## 分野別の参考指標

### 安心を支える生活環境づくり

施策の小柱	主な指標	令和元年度 (現状)	令和7年度 (目標)
◇ 地域医療・介護 提供体制の確保	医療施設従事医師数（全域過疎市町）	<b>452人</b> 人口10万人対 <b>195.1人</b> (平成30年度)	<b>452人以上</b> 人口10万人対 <b>217.1人以上</b>
	中山間地域に勤務するふるさと枠等の 卒業医師数	<b>23人</b>	<b>75人</b>
	医療や介護が必要になっても、安心 して暮らし続けられると思う者の割合	<b>55.6%</b> (令和2年度)	<b>69.0%</b>
◇ 地域特性に応じた 居住環境の整備	デジタル技術を活用した課題解決 モデルの創出	—	<b>10件以上</b>
	地域で支え合う新たな交通サービスを 交通計画に位置付けた市町数	—	<b>19市町</b>
◇ 子育て環境の充実	安心して妊娠、出産、子育てができる と思う者の割合 (ひろしま版ネウボラを実施している市町)	<b>80.0%</b>	<b>86.0%</b>
◇ 里山・里海の環境保全	手入れ不足の人工林の間伐面積	<b>614ha</b>	<b>1,050ha</b>
	3品目の海岸漂着物 (ペットボトル、プラスチックボトル、 レジ袋)	<b>8.4 t</b>	<b>7.9 t</b>
◇ 危機対処能力の向上	避難の準備行動が出来ている人の割合	<b>13.6%</b>	<b>50.0%</b>

※ 地域を限定していない「主な指標」の目標値は、全県を対象とする数値。



## 資料編

- 中山間地域に関する住民意識調査等の状況
- 広島県中山間地域振興条例